

令和元年9月19日付【水道産業新聞】
 下水道技術者対象に技術講習会
 <ビジョン・マンホール蓋を話題に>

ビジョン・マンホール蓋を話題に

水コン協 下水道技術者対象に技術講習会

全国上下水道コンサルタント協会は11日、都内で下水道事業に携わる技術者を対象に第2回技術講習会を開き、会員コンサルタントから約50人が参加した。



約50人が参加

東正史・水コン協下水道計画設計小委員会委員長(NJS)は、「将来像を描く『下水道ビジョン』の提案―効率的・効果的な事業運営のための将来像やロードマップの検討―と題し、施策の優先順位や長期的な収

支の見通しを明確にするビジョンのコンセプトとともに実際にビジョンを策定した都市の事例を紹介した。

会員コンサルタントの平成28年度の調査によると、下水道ビジョンの策定実績は、過去3年程度の間で34件となっており、策定のニーズは、政



東委員長

多くの都市に実施している都市において高い傾向が見られ、検討体制として多くの都市が委員会を設置している



分部氏

令都市以外で、かつ、多くの事業を実施している都市において高い傾向が見られ、検討体制として多くの都市が委員会を設置している。一方、住民が参画している都市は少なかった。策定事例では、水道事業と下水道事業を一本化したビジョンの例や、アンケート調査を通じて市民の要望を把握し、施策の設定に反映した例、短中・長期に取り組む事業と事業費を明らかにした例などを挙げた。

日本クラッドマンホール工業会の分部優美氏(日之出水道機器)は、「マンホール蓋のJIS改正とストックマネジメントの進め方」と題し講演し、下水道台帳には、蓋の属性情報が記載されていないため、蓋タイプを特定し、リスク評価や、健全率予測式を用いた長期的な改築事業のシナリオの設定を行う必要があるとした。また、設置基準に適合した蓋を対象に、腐食の恐れが多い場所に設置された蓋を点検、緊急輸送路やバス